

～73名とともに「おもてなし」のコンコードへ～

七飯町総務課長 宮 田 東

今年の訪問団は、例年行われている8名の中高生を始めとする、町民と引率教員を含めた14名の海外交流派遣研修訪問団（9月23日～10月4日、12日間）と昨年4月にコンコードカーライル高校と姉妹校の提携を結んだ七飯高校の訪問団59名（9月23日～10月2日、10日間）、合わせて73名の大訪問団となりました。

過去に例を見ない今回の大訪問団の目的は、コンコードカーライル高校のブラスバンドと七飯高校吹奏楽局との合同演奏会の成功並びに、より深くコンコード町民との絆を深めることでした。

出発当日は、台風15号の影響を心配しつつ当日を迎えましたが、訪問者全員の日頃の精進が良かったのか天候に恵まれ、保護者や家族の皆さんの見送りのなか、73名の訪問団一同は心を弾ませて函館空港を8時45分に出発しました。

羽田空港に到着後は、貸し切りバス2台で成田空港に向かい、15時55分発のミネアポリス行きに搭乗したものの11時間ほどの飛行時間で朝、昼、晩の3食の食事サービスがあり、現地時間12時55分無事ミネアポリスに到着しました。

13時間の時差のため、寝たのかどうか今一の睡眠不足と興奮のなかで、多少迷いながらも難関の入国審査を受け、15時20分発のボストン行きの飛行機に乗り換え、19時10分ボストンローガン空港に到着しました。

長旅で疲れ気味でしたが、小雨の中、コンコードの皆さんが温かい笑顔で迎えていただき、大変嬉しく、感激いたしました。これが、これまで14年間に亘る交流を積み重ねてきた成果なのかと驚き、改めて認識させられました。感謝、感謝、感謝の思いでした。

その後、2台のスクールバスでコンコードカーライル高校に行き、カフェテリアでホストファミリーと無事に対面を果たし、73名それぞれのホームステイ先へと向かいました。

私がお世話になりますホストファミリーの車が、偶然にも私と同じトヨタプリウス、そのせいかもしれませんが、初対面にも拘らずから、共通の話題ができ、これから悪戦苦闘するであろう英会話に一抹の不安の中、一方で大いに楽しみたいと相反する気持ちになりました。

コンコードの概要については、これまでの長い交流を通して多くの方がご存じかと思いますが、割愛させていただきますが、七飯町とさほど変わらない気候と聞いていましたが、例年の訪問より3週間早い訪問時期のせいか、1週間の滞在中天候にも恵まれ暑くて半袖

が似合う気候でした。自然の中に住宅が点在し、リスなどの小動物もよく見かけるなど別荘地のような雰囲気醸し出しています。

2日目の午前中、ホストファミリーの車で町を案内していただきましたが、事前には聞いていましたが改めてお屋敷風の邸宅が多いのにはびっくり、歴史を感じながら教養の高い文化人が多いのでしょうか、大仰天です。さらに非常に驚いたことがありました。複雑な交差点が多いにも拘らず、日本では考えられないほど信号機や横断歩道が少なく、歩行者が横断する場合は歩行者優先で停車するのが当たり前



ホストファミリーのビル、クリスさん

前、車同士は譲り合いの精神、登下校時のスクールバスが停車した場合でも追越し禁止など徹底されているが、よく交通事故が起きないと、未だに不可解でコンコード町民のモラルの高さに敬服しています。

今回の訪問は、コンコード町の交流窓口が民間人中心で限られた有志の方々での受け入れと時間的に訪問が難しいことから、タウンハウスへの訪問を残念ながら割愛させていただきました。主な活動は、合同演奏会、七飯高校吹奏楽局の演奏（一般、全校、小学生など）、七飯和太鼓の披露、日本舞踊の披露、コンコードカーライル高校の見学及び授業参加、コンコード町内のオーチャードハウスやオールドノースブリッジの見学、町外ではハーバード大学（構内見学）、バークリーカレッジ（構内見学・ジャズ演奏鑑賞）、ボストン美術館見学などでありました。

特に、今回の最大目標である合同演奏会や七飯高校吹奏楽局の演奏披露では、演奏終了後即座にスタンディングオベーションが沸き起こり、拍手が鳴り止まない中でのアンコール曲の披露と、恥ずかしながら感動で涙ぐんでしまいました。会場には、在ボストン日本国総領事館首席領事の渡邊さん、コンコード町の議長さんや教育長さんなどもお見えになられ、大変お褒めの言葉をいただきました。また、海外交流派遣研修訪問団では、コンコードカーライル高校内のスタジオにおいて、メンバー全員がローカルではありますが、ラジオに生出演し、七飯町のPRに努めました。中高生の度胸には、ただただ感心させられました。



高校内ラジオ局にて

個人的には、2回公式的に挨拶させていただきました。合同演奏会後のBBQパーティと翌日の公式交流昼食会ですが、ともに悪戦奮闘のカンニングペーパーを見ながらの英語でのスピーチをさせていただきましたが、原稿を見ながらでも発音も悪く、噛み噛みも多く帰国後も反省の毎日です。

コンコード町を省みると、歴史を感じさせる町並みや自然を愛する姿勢が強く感じられ、テレビなどの映像でよく見られるアメリカの雑踏的な面がなく、住みやすい住環境でした。特に、澄み切った夜空は満天の星が今にも落ちてきそうな雰囲気を感じ出し感激しました。

コンコードの方々が、初対面にも関わらず、とても温かく親切に対応していただけることは、住環境の良さからきているのかなと感じました。

今回の訪問団の中高生は、このたびの経験を生かし、いつかは海外で活躍してほしいと願いますし、引率教員を始めとする一般町民の皆さんは、目的意識をしっかりと持った行動を七飯町の町づくり・人づくりに活かしてほしいと願います。

今回のコンコード訪問で感じたことは、文化や生活習慣、言葉の違いがあるにも関わらず、これまでの交流がしっかりと根付いており、その輪が確実に広がってきていることです。



訪問団集合写真（自由の女神前）

このことは、73名の大訪問団が所期の目的をしっかりと果たし無事に帰国できたことが裏づけとなったと言えるでしょう。

来年の平成24年には、姉妹都市交流15周年を迎えますが、さらなる絆と友愛を深めながら交流し続けていくことが未来を担う子どもたちにとって意義あることだと感じました。

今回の海外交流派遣研修訪問団及び七飯高校の訪問団、73名の受け入れに当たり大変お世話になったコンコードの皆さんに感謝とお礼を申し上げますとともに、このたびの大訪問団の派遣にご支援ご協力いただいた関係各位にお礼を申し上げ派遣研修報告といたします。

コンコードの皆さん、温かい「おもてなし」どうもありがとうございました。